

平成 19 年度 大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会

ニホンジカ保護管理部会（第 2 回）

議事概要

日時：平成 20 年 3 月 7 日（金）14:00~16:00

場所：環境省近畿地方環境事務所会議室

1. 挨拶

2. 議事

(1) 平成 19 年度事業実施結果について

(2) 平成 20 年度事業実施計画について

3. その他

名簿

1. 委員

柴田 敏式（欠席）名古屋大学大学院教授

高橋 裕史 森林総合研究所関西支所生物多様性グループ

高柳 敦 京都大学大学院農学研究科 講師

田村 義彦（欠席）大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長

鳥居 春己 奈良教育大学教育学部付属自然環境教育センター 准教授

村上 興正 元京都大学 講師

横田 岳人 龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 講師

2. 関係機関

莊司 庄一 近畿中国森林管理局三重森林管理署 流域管理調整官

若山 学 奈良県農林部森林保全課 主査

宮本 正行 三重県環境森林部自然環境室 副室長

南 友二 上北山村建設産業課主事

富室 良城 吉野きたやま森林組合 専務

福西 貢 奈良県獣友会上北山支部 支部長

新谷 五男 奈良県獣友会上北山支部 副支部長

中世古 太輔 社団法人三重県獣友会 会長

3. 事務局

田邊 仁 近畿地方環境事務所 統括自然保護企画官

高橋 勝志 近畿地方環境事務所 野生生物課長

西野 雄一 近畿地方環境事務所 野生生物課 移入生物専門官

櫻澤 裕樹 近畿地方環境事務所 国立公園・保全整備課 自然保護官

羽井佐 宏幸 近畿地方環境事務所 吉野自然保護官事務所 自然保護官
釜田 淳志 近畿地方環境事務所 吉野自然保護官事務所 自然保護官補佐
樋口 高志 (株)環境総合テクノス 環境共生部リーダー¹
保延 香代 (株)環境総合テクノス 環境共生部
永津 雅人 財団法人 自然環境研究センター 第三研究部 部長
荒木 良太 財団法人 自然環境研究センター 第一研究部

【個体数調整について】

- 目標捕獲頭数に比べ実績頭数は大幅に低かったが、今回始めて導入した装薬銃効果はあった。
- 次年度からは捕獲効率が高いことが予想される春から夏の間に捕獲圧を集中させる。装薬銃はドライブウェイ開通前まで、麻酔銃は夏までに集中的に行う。
- シミュレーション結果は閉鎖系を想定しているため、実際の結果と異なることが予想される。
毎年見直しを行い補正する。

【植生保全対策】

- 平成19年度からは、全体計画を立てて優先順位をつけて系統的に行っていくこととなった。
- 実施に関しては、測量、施行をまとめて行い、コストの低減を行う。

【モニタリング】

- 糞粒法の結果を評価する際、メッシュごとの評価とともにハビタットごとの評価も必要である。
- 糞粒法の結果、ルートセンサスの結果とともに、漸減傾向を示し、ある程度個体数調整の効果が伺えるものと推察された。
- ルートセンサスの群れ構成について、経年的な解析を加える。
- GPS首輪が装着できた個体数は3頭であったが、今後も継続して行う。
- 栄養状態、妊娠状況の結果については、サンプル数が少ないため、目的を明確にした解析が必要である。また、過去のデータの検証も行うべきである。
- シカの密度と下層食性を対比させて変化を検証するべきである。糞粒法の結果を併記する。
- 天狗巣病の影響についても把握が必要である。

【新規捕獲手法】

- 平成19年度はドロップネットの開発を行い、いくつかの問題点が明らかとなった。問題点の解決に努める。
- 新規捕獲手法としてくくりわなによる手法について安全性や効果の観点から次年度に検討を行う。